

# ADV.1 458 Italia×Gallardo

## 鍛造兄弟。

飛ぶ鳥を落とす勢いで成長を続けるADV.1から  
またもや注目すべき銘柄が来日を果たした。  
鍛造な15本スポークを持つADV.15 MV2だ。  
それは自然とスーパースポーツにフィットする。

TEXT : 中三川大地 Ichiji Nakasagawa Photo : 河野マサオ Masao Kono



ガヤルドに装着されるのは前後20インチのADV.15 MV2。マットスモークという控え目な色合いがボディの色を引き立てる。まるで純正ホイールかのような馴染みいっけりに聞く。



458イタリアにはフロント21インチ(255/30)、リア22インチ(215/28)と前後異径に、純正比で1〜2インチアップだが、不自然な大きさを感じさせずに見事調和している。

**フ** ロリグに生まれたADV.1は、あれよあれよという間に定番へののぼり詰めている。たったの2年間で1万本以上ものホイールを世界へ向けて発信しているのだ。

飛ぶ鳥を落とす勢いという言葉が相応しいADV.1から、またもや注目アイテムが上陸した。その名もADV.15 MV2である。ADV.1と言えば「ADV.」のあとに続く数字がスポークの数を示す。それに沿って今作は15本。今まで10本以下のものばかりが打ち出されてきたかに思えるADV.1としては、割と珍しい均等15本スポークの姿を持つ。

この鍛造な姿カタチはいい。グラマラスな458イタリアの体感にも、戦闘機のような鋭利な肉体を持つガヤルドにも、よく似合うのである。その落ち着きっぷりを活かしたかの

ようなコーディネートも抜群だ。458イタリアは地獄のボディカラーに合わせてチタニウムというシルバー系を、ガヤルドは逆に鮮やかなレッドゆえ、マットスモークという黒系で引き締める。両車の色が互いに違っているだけで、この雰囲気は決して出ないはず。カラーリングでのきめ細かいコーディネートはきわめて重要な要素だと再確認する。

コーディネートと言えば、色だけではなくサイズ設定ももちろん。このあたりADV.1は得意技だ。MV2という鍛造2ピース構造ゆえの柔軟性が手伝って、フェンダーや車高、ブレーキシステムとの関係性において無理がない。「スーパースポーツなら俺たちに任せる」と、違う色で主張するADV.15 MV2が、瓜二つの鍛造兄弟のように思えた。